



堆肥の連用効果を利用した施肥量削減技術を開発

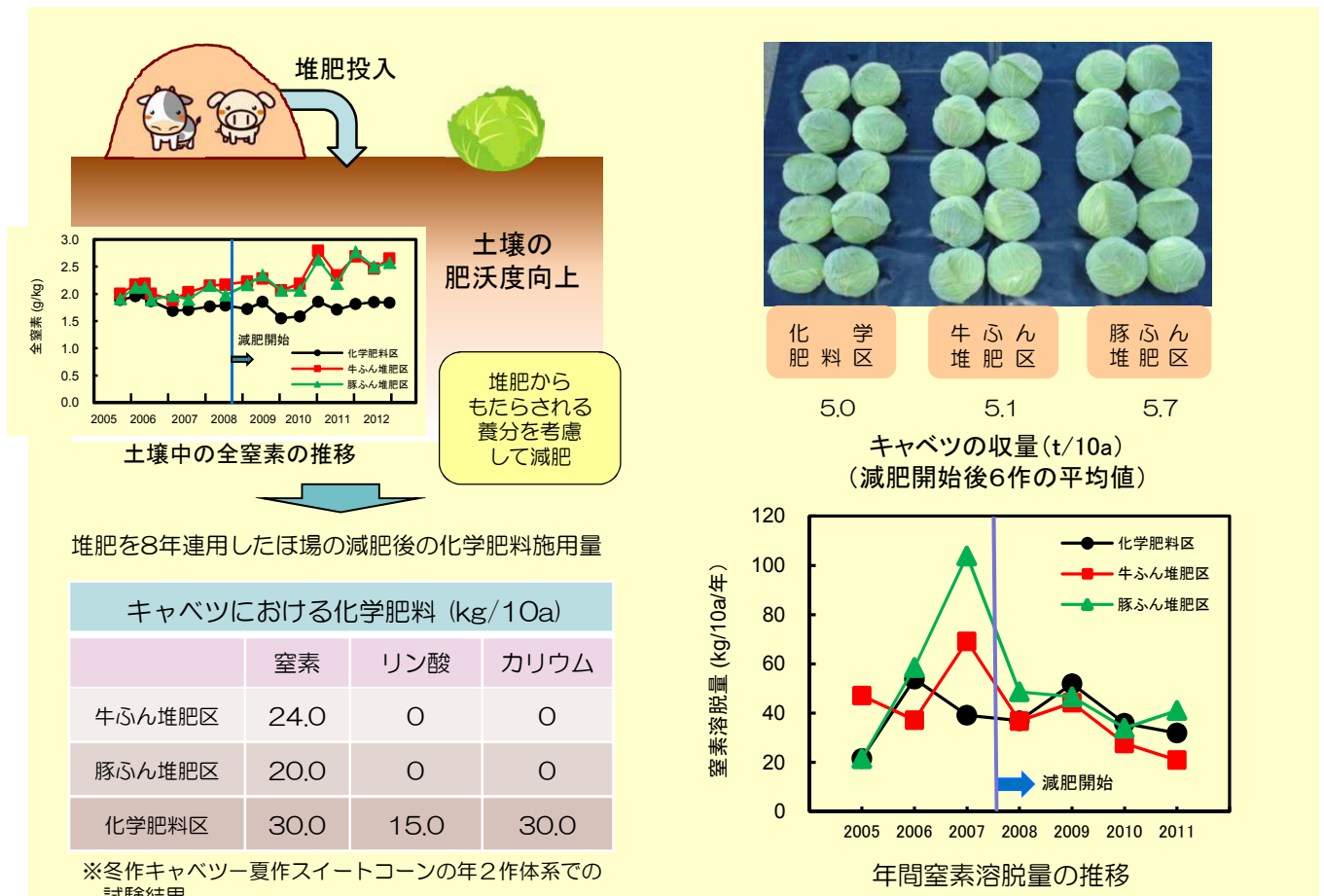
—環境に優しく収量を確保しながら施肥量を削減—

開発の背景・ニーズ

家畜ふん堆肥は有機物を多く含むため、連用することにより土壌が肥沃になる一方で窒素、リン酸、カリウムなどの肥料成分が増加します。そこで、堆肥を連用した露地野菜畑における施肥量削減技術の開発に取り組みました。

成果の内容

露地野菜畑において、堆肥からもたらされる養分を考慮することにより、化学肥料の施肥量を大幅に削減することができました。また、肥料を減らしても、野菜の収量は化学肥料だけで栽培した場合に比べ、同量以上確保できました。さらに、ほ場から溶脱する窒素の量は、減肥に伴い大幅に減少しました。



愛知県農業への貢献

家畜ふん堆肥の養分供給に基づく減肥により、化学肥料のコスト削減と省資源化に貢献できます。また、ほ場外に溶脱する窒素の量を減らすことができるため、地下水や河川の水質保全にも有効な環境に優しい技術として、農業や地域を支援できます。

【本研究は、「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で実施しました】

東三河農業研究所